

新名寄市総合計画（第1次）後期計画

第4回保健医療福祉部会議案

日 時 平成23年6月30日（木）

午後6時30分～

場 所 市役所4階大会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 題

(1) 総合計画後期計画（素案）について

Ⅱ－5 高齢者福祉の充実

Ⅱ－6 障がい者福祉の推進

Ⅱ－7 国民健康保険

(2) その他

4. その他

5. 閉 会

■第4回保健医療福祉部会 顛末及び発言内容

(司会) 山崎 社会福祉課長

(挨拶) 西部会長

前回に引き続き、ご議論をお願いしたい。

— 以降、西部会長の司会進行 —

(1) 後期基本計画(素案)について(シート毎に担当から説明)

5. 高齢者福祉の充実 【遊佐高齢介護課長】

(委員)

主な老人保健施設の中に現在建築しているグループホームやデイサービスなど施設は載ってこないのか。施設ができるのだから、後期の計画の中にある程度謳ったほうが良いのでは。

(委員)

現状と課題の中で、地域で支え合う環境づくりが求められているとされているにも関わらず、施策の基本的な考え方の中にその言葉がひとつも出てこない。改正された介護保険法の中に新たな施策が出ていることに対する計画だとか状況が盛り込まれていないというのはどうか。

また、施設の中では、地域密着型の施設というのが現在の介護保険で重要なところ。地域で支え合う拠点となるものの部分の表現が含まれていないように思える。

(遊佐高齢介護課長)

介護保険の主要施策に反映されていないところも一部あるので、地域で支え合う仕組みというものを基本施策の中に入れていきたい。

(委員)

地域包括支援センターで頼りにしている部分が虐待に対する対応。上手く機能している大事な部分なのに記述がない。表現の問題かもしれないが、虐待とか認知症の対応を一本柱として十分な活動と役割を果たしているので認知症対策とは別に記載してはどうか。

(江尻地域包括支援センター所長)

大まかな表現にしている。個別事業とは別に主な施策の中に追加という形でよろしいか。

(委員)

二次予防事業とはどういう内容なのか。誰を対象としたものか。解りやすく注釈をつけた方が良いのでは。

(江尻地域包括支援センター所長)

65歳以上の高齢者で要介護にならない方を対象にした項目をチェックするもの。わかり易い表現に修正する。

(委員)

施設整備の推進として特別養護老人ホームの整備改修とあるが、具体的な計画はあるのか。

(大石健康福祉部次長)

しらかばハイツが昭和63年の建設で非常に老朽化している。前期から載っているもので後期計画の最終年あたりで新・改築で整備改修を計画している。

(委員)

国の進める在宅福祉の充実が無いのはなぜ。

方針として、ユニット型が「清峰園」で、大部屋型が「しらかばハイツ」。途中で改修などしているが、何千万もかけて投資しているものが無駄になってしまわないよう、計画をしっかりと立てて改修なり改築を行ってほしい。

全道平均からすると180床の特養施設は多い。市民のコンセンサスとして特養ベッドが本当に必要なものか。

シルバーハウジングなどいろんなタイプの高齢者住宅が進められているが、どこかで福祉の議論する場はあるか。

(大石健康福祉部次長)

名寄市の5年後、10年後、人口が減ってくる中で、全体的な高齢福祉の議論の場は必要と思うが、後期計画の中でアンケートをとり、明確にしていきたい。

(委員)

施設にかかる費用というものがあって、介護保険料では足りないので市で一人100万円ほど持ち出しをしている。施設はお金がかかるという情報開示をしっかりと、市民が判断すべき。

皆施設に入れる訳ではない。いつまでも建物を作り続ける訳にはいかない。

行政としては、粛々と壊れたら施設を改修する、ニーズがあれば増やすということをしているが、このような場で市民がしっかりと議論することが大事。実際のところ、人口比からすると180床はオーバー。状況を市民が認識して、あれもこれも欲しいとなれば市自体が衰退していく。議論しなければならない時期にきているのではと思う。

地域の中で支えあう力があればお金は掛からない。そのような時代に入ってきているので、この中のどこかに情報開示をして、市民懇話会など話し合いの場を行うということを盛り込んで欲しい。

(委員)

国の政策そのものが施設入院から在宅に明らかに向かっているにもかかわらず、地域で在宅福祉の充実という言葉が全くここに出てこないのが不思議。

(委員)

自分たちが医療費含めてどれだけ税金を使っているのかという認識がどれくらいあるのか。

情報開示をしっかりと、効率よく税金を使って皆が納得して生活をできるようにという議論は必要と感じる。

在宅介護で頑張っている人への支援もあるが、施設との格差が大きすぎる。

6. 障がい者福祉の推進 【山崎社会福祉課長 説明】

(委員)

手帳の交付が5年間で40%増えているが、このまま伸びていくものか。

(委員)

内部障害は糖尿、心臓疾患など。生活習慣病対策がすごく大事になる。保健事業との関連性がある。

(委員)

手帳交付が増加している原因については分析が必要。様々な背景があると思うが、人口が減っている中で障がい者が倍増するという変化があるので、計画の文言に追加してはどうか。

(委員)

障がい者と介護保険のサービスに差に疑問を感じているが、どのように考えるか。

障がい者にはデイとショートしかない。介護保険対象でない方で、障がい程度によって何も利用できない人もいる。事業者に対応を聞いて名寄市として通所サービスの充実を望む。

(山崎社会福祉課長)

事業者で施設をつくる計画をまだ聞いていないので、今後できるだけの調査をして計画につなげたい。

障がい者の望むサービスや需要量、また事業所の将来計画を懇談会の中で聴き取り、計画に反映したいと考えているので、その段階で文言が変わるかもしれない。

(委員)

今、障がいを持った方は東日本大震災で不安な方が多い。避難所でどのような生活になるのかなど、防災時の援護体制について文章に取り入れられたが、体系図には記載されないのか。

(山崎社会福祉課長)

これから、検討させていただく。

(委員)

市長との懇談会の中で、働く意欲を持っていて自立した生活を望んでいるとの声もあった。障害者年金では一人で部屋を借りて自立するには少し足りない。雇用の拡大と賃金アップをしていただきたいとの切実な話もあったが、雇用拡大という中の計画に入っているが、そんな方々への就労支援策が欲しい。

(委員)

小さな会社での雇用は難しい。名寄では他所の街に類を見ない事業を行なっていることもあるので、名寄オリジナルの支援策のような文言が盛り込まれると良い。

(委員)

基本事業で「障がい者が社会を構成する一員として自立促進を図るため」とあるが、この文章では、障がい者が社会の構成員として自立することが義務のように感じられる。少し文言の整理はできないか。

(上西委員)

障がい者の避難先での生活環境も考えてほしい。

(委員)

安否確認の役割分担はどのような体制か。それぞれの団体等で情報を持っているが、大事な時に機能していないという気がする。個人情報取り扱いの問題は理解するが、組織づくりが難しい。

(委員)

水害の時には、どこの誰が安否確認するのか。役割分担ができてスムーズに避難できる体制ができればと思う。

(委員)

研修会の中では、市は個人情報を出すものではないと言っていた。避難経路研修でも「近所の人々が互いに情報共有するのが一番」と聞いている。そのような話し合いを持つ機会をつくりましょうという研修だった。

(委員)

安否確認はできても、避難は間に合わない。行政のできることと市民の役割を話し合わなければならない。

7. 国民健康保険 【三島市民課長 説明】

(委員)

22年度からなぜ高医療費体質の指定を受けたのか。

(委員)

高医療体質というのはある意味、医療機関が充実しているということも関連しているのか。

(三島市民課長)

実は入院率が高い。対策をとらなければダメだと思っている。

(委員)

収納率は他の自治体と比較してどれくらいか。

(三島市民課長)

収納率は95%程度。全道の中でも上から4番目。

その他全体を通してご意見等

(委員)

特別養護老人ホームの入所者で全員が市内の方ではないと思うが、市外の方は何人くらいいるのか。

(大石健康福祉部次長)

清峰園が4人、しらかば Heights で11人の計15人。

(委員)

全体に関わることだが、後期計画なので、比較するため表は前期に合わせた方が良いと思う。

今回の議論を踏まえた修正箇所、主な事業が入ったものを次回に提示する。

また、次回よろしく願いたい。長時間お疲れさまでした。